世代を超えた絆に導かれ再びアカメの海へ。

りぐ」山本浩雅氏との出会いだった。

香川県在住の・Eaテスター濱本国彦。 ・ 本語の呼びかけで始まったSWAP (Salt Water Angler's Party)。 ・ 小林厚治は、参加者としてその会場にいた。 ・ 小林原治は、参加者としてその会場にいた。 ・ かよの写真がところ狭しと並んでいるのが目に ・ カメの写真がところ狭しと並んでいるのが目に ・ カメの写真がところ狭しとがんでいるのが目に 「これどうやって釣ったのですよ。難しいけど、「全部ね、僕の船で釣ったんですよ。難しいけど、「全部ね、僕の船で釣ったんですよ。難しいけど、

「厚治さん、僕がご案内しますよ」と山本氏は小濱本国彦が間に立つと、会話はより弾んだ。 この時から、彼のアカメ熱は再燃する。

カメへと続く道が、彼の前に再び開けたのである。世代のアングラー、濱本国彦が運んできた縁で、ア絆を大切にするためにSWAPを主宰する次 末に高知へと通う日々が戻ってきた。

林厚治を乗せ海に出た。そしてさまざまな縁でつ山本氏は、多忙なスケジュールの合間を縫って小 釣ってほしいから」と自らのロッドを置くことも多一緒に釣りをする若きアングラーたちは、「アニキに 彼を温かく迎え入れ、全力でサポートした。ながった、高知に住むたくさんの仲間が遠征毎に 代わりに出船したこともあった。まひろつりぐの船が出せないときは、仲間の船

時は経っても彼の情熱と行動力は、微塵も衰えて その思いに応えようと、小林厚治は精力的にキャ

共有する仲間たちとの時間とは同じくらい大切でにとっては、目指す魚との出会いと、釣り場で彼にとっては、目指す魚との出会いと、釣り場で彼にとっては、目指す魚との出会いと、釣り場であれていい。

叶う、その日が訪れたのだった。 そして2012年5月11日、遂に2年越しの夢が遠征の日々は続く。

繰り寄せていった。やがて相手は浮き上がり、水面 せ、丁寧にポンピングを繰り返し魚を少しずつ手「必ず獲れる」小林厚治は自分にそう言い聞か ドラグは間断なく叫び、一気に50m以上ラインが引 にその姿を晒した。

した時だった 船縁に寄せ、

ブレイクさせ全てを振り払って巨大アカメは、ドを破壊し、ロッドをへし折り、4118のライ

カメは、またしても小林厚治の手に落ちるのを

忘れなかった。このような興奮を与えてくれたアカメと浦戸の海、そしてここまで連れてきてくれた仲間たちに感謝することをですれてかった。

2011年11月2日。この日の小林厚治は、高スター今井隆道と供に、夜の浦戸湾へ静かに出航スター今井隆道と供に、夜の浦戸湾へ静かに出航した。50~60mのボラが群がってステイするシャレた。50~60mのボラが群がってステイするシャローエリア。ルアーは、「田田村好仁、同じく「田田テムを、ボラ達が狂ったように逃げまどい始めた。「瞬、ルアーの重みが消え、そして動かなくなった。次の瞬間、ラインは巨大な力に引きずられて暴走を合うる。

「デカイ!」ランディングに備え、見守っていた仲間

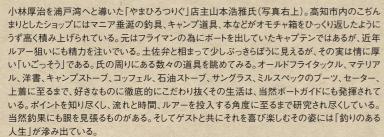
1m2㎝、2㎏あろうかというアカメだ。たちは息を呑んだ。

せた。強烈なエラ洗いに水面が激しく割れ、魚は疲れていたはずの相手は突如その膂力を爆発さ











IFIG ELI : AN

